CRC 連絡誌 No.282 号、2001 年 4 月
CRC 事務局 宇宙線研支部
crcjimu@icrr.u-tokyo.ac.jp

****

宇 宙 線 研 究 者 会 議 連 絡 誌

****

★ ★ ★ ★　**CRC 選挙** があります。　★ ★ ★ ★

★ ★ ★ 投票〆切は **4 月 27 日 (金)** です。★ ★ ★

この連絡誌の最後のページにある「投票用紙」で 郵送投票するか、または、
E-mail 会員は、4 月 16 日 (月) 頃に配信される「E-mail 投票用紙」で投票して下さい。

E-mail address をお持ちの会員で、最近「CRC News」の E-mail を受信していない方は、事務局 (crcjimu@icrr.u-tokyo.ac.jp) へお知らせ下さい。

E-mail で「CRC News」を 毎週 1~3 回ほど配信しています。

CRC Homepage　**http://www.icrr.u-tokyo.ac.jp/CRC/**

には、「速報」や「会員名簿」などがあります。ご利用ください。

会費は 郵便振替で お振込み頂くか、又は CRC 事務局へ 直接お渡し下さい。

郵便振替 口座番号 ： **00280 - 3 - 70114**
加入者名 ： **CRC 事務局**

********** < 目　　次 > **********

• [CRC 関連委員会報告]

	開 催 日	記　事	CRC Homepage の速報-No.	ページ
1.	5 月 20 日	平成 12 年度第 1 回東京大学宇宙線研究所 共同利用運営委員会議事要録 (案) ……	速報-139	page- 3
2.	9 月 22 日	平成 12 年度第 2 回 CRC 実行委員会議事要録 ……	速報-140	page- 4
3.	9 月 23 日	平成 12 年度第 1 回 CRC 総会議事要録 ……	速報-158	page- 6
4.	10 月 31 日	第 18 回 KEK 運協報告 ……	速報-150	page-14
5.	11 月 08 日	原子核専門委員会委員議事録 (第 18 期：第 1 回) …	速報-148	page-15
6.	11 月 09 日	物理学研究連絡委員会議事録 (第 18 期：第 1 回) …	速報-149	page-18
7.	9 月 26 日	大阪大学核物理センター (RCNP) 運協報告 (1) ……	速報-151	page-22
8.	11 月 25 日	大阪大学核物理センター (RCNP) 運協報告 (2) ……	速報-151	page-22
9.	1 月 18 日	第 1 回宇宙線物理学奨励賞 受賞者発表 ……	速報-160	page-23
10.	2 月 10 日	平成 12 年度第 3 回 CRC 実行委員会議事要録 ……	速報-176	page-24
11.	2 月 20 日	物理学会の代議員候補者の推薦に関して ……	速報-169	page-31
12.		CRC 選挙人名簿 ……		page-32
13.		CRC 選挙公示 ……		page-35
14.		選挙用紙 ……		page-37

• [主な CRC 活動]

9 月 22 日、 平成 12 年度第 2 回 CRC 実行委員会
9 月 23 日、 平成 12 年度第 1 回 CRC 総会
11 月 21 日、 非 E-mail 会員へ CRC 連絡誌 速報-3 号 発行郵送
12 月 16 日、 第 1 回宇宙線物理学奨励賞選考委員会
1 月 18 日、 第 1 回宇宙線物理学奨励賞受賞者発表
1 月 25 日、 非 E-mail 会員へ CRC 連絡誌 速報-4 号 発行郵送
2 月 10 日、 平成 12 年度第 3 回 CRC 実行委員会
3 月 27 日、 平成 12 年度第 4 回 CRC 実行委員会
3 月 28 日、 第 1 回宇宙線物理学奨励賞授与式
3 月 28 日、 平成 12 年度第 2 回 CRC 総会
4 月 09 日、 CRC 連絡誌 No.282 & 速報-5 号 発行郵送
4 月 09 日、 CRC 選挙公示
随　時 、 CRC News E-mail 配信

• [訃　報]

平成 13 年 3 月 1 日、小田 稔 先生 が御逝去されました。
謹んで御冥福をお祈り致します。

- 次ページに **E-mail** で配信した、委員会報告以外の「**CRC News**」の表題を列記しました。「**CRC Homepage** の 速報」を、又は 非 **E-mail** 会員の方は「**CRC** 連絡誌 速報版」を、参照して下さい。

配信日	速報 No.	記　事
研究会		
9 月 13 日	速報-126	高エネルギー宇宙物理連絡会、第 1 回研究会
9 月 20 日	速報-128	東京大学宇宙線研究所共同利用研究 研究発表会
9 月 26 日	速報-129	International Workshop on Low Energy Solar Neutrinos
9 月 27 日	速報-130	特定・「ニュートリノ振動とその起源の解明」第 2 回研究会
10 月 03 日	速報-131	ICRR2000 サテライトシンポ「高エネルギー宇宙の総合的理解」
10 月 03 日	速報-132	基研研究会「高エネルギー宇宙物理学の展望」
10 月 10 日	速報-134	第一回日本 Geant4 ユーザ会ワークショップ
10 月 13 日	速報-135	特定・宇宙ニュートリノ第 4 回研究会
11 月 02 日	速報-141	東京大学宇宙線研究所共同利用研究研究発表会
11 月 07 日	速報-142	International Workshop on Low Energy SolarNeutrinos & The 2nd workshop on Neutrino Oscillations and Their Origin
11 月 16 日	速報-147	超高エネルギーガンマ線天体研究会
12 月 07 日	速報-153	2001 年 Lepton Photon 国際シンポジウム (ローマ)
12 月 11 日	速報-154	東京大学宇宙線研究所共同利用研究 研究発表会
12 月 15 日	速報-155	EPS-HEP 2001 (Budapest)
1 月 23 日	速報-161	特定・宇宙ニュートリノ第 5 回研究会
2 月 05 日	速報-164	最高エネルギー宇宙線 国際ワークショップ
2 月 06 日	速報-165	「高エネルギー ハドロン相互作用」研究会
2 月 09 日	速報-167	最高エネルギー宇宙線 国際ワークショップ
2 月 20 日	速報-168	太陽圏シンポ & 太陽圏外圏の光学的手法による研究会
2 月 27 日	速報-171	最高エネルギー宇宙線 国際ワークショップ
3 月 05 日	速報-174	2001 IEEE Nuclear Science Symposium and Medical Imaging Conference
3 月 12 日	速報-177	物理-天文-地球物理 合同セミナー
3 月 12 日	速報-178	日本における次世代の長基線ニュートリノ振動実験ワークショップ
公募		
10 月 06 日	速報-133	東北大学大学院理学研究科物理学専攻教官公募
10 月 18 日	速報-136	KEK COE 研究員公募
10 月 26 日	速報-137	東京大学宇宙線研究所 COE 研究員公募
10 月 26 日	速報-138	東京大学宇宙線研究所研究員公募
11 月 07 日	速報-143	平成 13 年度東京大学宇宙線研究所共同利用研究の公募
11 月 29 日	速報-152	KEK 非常勤研究員 (COE 研究員) 公募
12 月 15 日	速報-156	素粒子原子核研究所 COE 研究員公募
12 月 26 日	速報-157	素粒子原子核研究所 教官公募
1 月 15 日	速報-159	東邦大学理学部物理学科教員公募
1 月 24 日	速報-162	Duggal Award の公募
2 月 08 日	速報-166	第 3 回 高エネルギー物理学奨励賞 推薦及び応募
3 月 01 日	速報-173	理化学研究所 研究員公募
その他		
9 月 18 日	速報-127	物理学会事務局より講演時間変更のお知らせ
11 月 10 日	速報-144	日本物理学会第 56 回年次大会における合同セッション
11 月 10 日	速報-145	訃報；モスクワ大学クリスチャンセン教授ご逝去
11 月 15 日	速報-146	訃報；折戸周治教授ご逝去
1 月 31 日	速報-163	訃報；ロシアの チュダコフ博士ご逝去
2 月 23 日	速報-170	27th ICRC (2001 年 Hamburg) の情報について
3 月 01 日	速報-172	小田 稔 先生 御逝去
3 月 08 日	速報-175	物理学会第 56 回年次大会プログラムの訂正
3 月 21 日	速報-179	CRC 総会開催のお知らせ

平成 12 年度第 1 回東京大学宇宙線研究所共同利用運営委員会議事要録 (案)

日　時：平成 12 年 5 月 20 日 (土)　11 時 10 分 ~ 14 時 00 分
場　所：東京大学宇宙線研究所会議室 (大セミナー室)
出席者：戸塚所長，小山，西川，松岡，太田，村木，坂田，相原，黒田，木舟，荒船，鈴木，
　　福島 各委員
honbun 欠席者：柳田，本林 各委員
(事務部) 福事務長，荻原総務主任，中村共同利用掛長，松山施設掛長

議事に先立ち，新委員の相原，荒船 各委員及び中村共同利用掛長の紹介があった。

１．議事要録 (案) の承認
前回の議事要録 (案) は，承認された。
２．報告事項
(１) 研究所の活動状況報告について
ア．所長から，5 月 9 日にアデレード (オーストラリア) で開催された Opening of the CANGAROO II Telescope について，オーストラリア駐在大使，アデレード大学長等が出席して除幕式を行った旨報告があった後，木舟教授から, 補足説明及び CANGAROO III の始工式も併せて行った旨報告があった。　また，5 月 24 日には駐日オーストラリア大使館においてこれに関するレセプションが開催される旨報告があった。
イ．所長から，学術審議会宇宙科学部会について，近々開催される予定であり，宇宙線研究所の将来計画等についても審議されることとなる旨説明があった。
ウ．所長から，柏移転記念として国際シンポジウムを 10 月 13 日 (金) の竣工披露記念式典に合わせて，本研究所大セミナー室において開催する計画である旨説明があった。

(２) Report from the review committee について
所長から，配付資料 3 に基づき，本年 2 月 1 日，2 日に実施した宇宙線研究所外部評価の報告書の原案について，5 月の教授会において関係教官から反論があり，それを小田評価委員長に報告している旨説明があり，荒舟教授から反論の内容について補足説明があった。

(３) その他
ア．黒田教授から，LCGT のパンフレットが配付され，それに基づき研究活動報告があった。
イ．坂田委員から，CRC 関係について，本年度の実行委員 (任期 1 年) は次の通りである旨報告があった。

委員長　坂田通徳
委　員　村木　綏　(名古屋大学太陽地球環境研究所教授)
　　鳥居祥二　(神奈川大学工学部助教授)
　　谷森　達　(京都大学大学院理学研究科教授)
　　梶田隆章　(東京大学宇宙線研究所教授)
　　神田展行　(宮城教育大学教育学部助教授)
　　手嶋政廣　(東京大学宇宙線研究所助教授)
　　長谷部信行 (早稲田大学理工学総合研究センター教授)
　　太田　周　(宇都宮大学教育学部長)
　　松岡　勝　(宇宙開発事業団宇宙環境利用研究システム招聘研究員)
　　宗像一起　(信州大学理学部教授)
　　水谷興平　(埼玉大学理学部教授)
　　西嶋恭司　(東海大学理学部助教授)

ウ．村木委員から，日本学術会議物理学研究連絡委員会における審議で，宇宙線研究所のＴＡ計画を支持することとなった旨報告があった。　また，戸塚所長から，天文学研究連絡会議においても，同様の議事があったことの報告があった。

３．審議事項

（１）平成 12 年度共同利用研究費査定報告の承認について

坂田通徳協同利用研究査定委員会委員長から，平成 12 年度共同利用研究費査定報告について配付資料 4 に基づき説明があった後，所長から査定結果について諮られ，審議の結果承認された。

（２）平成 12 年度の教官公募方針 (案) について

所長から，配付資料 5 に基づき，平成 12 年度の教官公募 (案) について説明があった後諮られ，原案どおり公募することが承認された。

（３）平成 13 年度の教官公募方針 (案) について

所長から，配付資料 5 に基づき，平成 13 年度教官公募方針 (案) について説明があり，原案通り公募することが承認され，次期所長に申し次ぐこととした。

◆◆

◆◆◆ **CRC Homepage 速報-140，　CRC News No.196；2000 年 10 月 31 日配信** ◆◆◆

********** < 平成 12 年度第 2 回 CRC 実行委員会議事要録 > **********

日　時：平成 12 年 9 月 22 日　午後 5 時 15 分 ~ 6 時 30 分
場　所：新潟大学　日本物理学会　ＷＪ会場
出席者：坂田通徳 (甲南大：委員長)、谷森 達 (京大)、梶田隆章 (ICRR)、神田展行 (宮城教育大)、
手嶋政廣 (ICRR)、長谷部信行 (早稲田大)、松岡 勝 (宇宙開発)、宗像一起 (信州大)、
水谷興平 (埼玉大)、西嶋恭司 (東海大)、(以上委員)、
井上直也 (埼玉大事務局)、林田直明 (ICRR 事務局支部)

.....

◆（1）事務局報告（林田）

(ａ)「CRC News」メール配信 (7 月 15 日第 1 回実行委員会以降分) について

○ 委員会報告；2 件
8/9; 素核研運協、　9/5;(会報)CRC 実行委員会議事要録、

○ 公募案内；2 件
8/14; 阪大理物理学教授、　9/5;(会報) 宇宙線物理学奨励賞受賞候補者募集

○ 研究会案内；5 件
7/31; 2nd Int. Workshop on Neutrino Beams and Instrumentation、
8/15; ICRR2000 Int.Sympo.、　9/1；宇宙ニュートリノ研究会、
9/7；ICRR2000 Int.Sympo.(2)、　9/13; 高エネルギー宇宙物理連絡会研究会、9/20; 宇宙線研共同利用研究発表会

○ その他のお知らせ；6 件
7/17; 物理学会プログラム概略、　7/28; 物理学会年会で託児室開設、
8/10; CRC 会員名簿更新、　9/4；シカゴのシンプソン氏御逝去、
9/6；CRC 総会開催、　9/18; 物理学会講演時間変更

(ｂ) 会計報告

9 月 20 日現在の残金　約 95 万円
今後の支出予定：実行委員会旅費として 25 万円、連絡誌関係 25 万円
その他ＣＲＣ奨励賞賞金など。

◆ (2) 新入会希望者

林　清一　(甲南大学 D1)　推薦者:　梶野文義、坂田通徳

修士での研究: ユタの 7 素子テレスコープグループに属して、Mkn 501 からの TeV ガンマ線データを最初に Lamb の方法を用いて周期解析を行ない、Mkn501 の 24 日周期に関して各種の統計的評価を行なった。　学会発表: 98 年秋 (秋田大)。

現在: Cangaroo グループで CANGAROO ー III のを駆動系担当して開発を行なっている。(専心 2 年半)

上記の希望者についての紹介があり、入会が承認された。

◆ (3) 宇宙線物理学奨励賞制定について

選考委員会；委員長　水谷興平氏 (埼玉大)、宇宙線関係委員として手嶋政廣氏 (ICRR)、長谷部信行氏 (早稲田大)。また理論関係委員として荒船次郎氏 (ICRR)、高エネルギー実験関係委員として渡辺靖志氏 (東工大)、天文学関係委員として 槇野文命氏 (宇宙開発事業団) に就任をお願いし、諒承を頂いた。

- ○ 同奨励賞推薦用紙について、「 推薦または自薦の理由、対象者の寄与 」記入欄が小さいとの指摘があった。次回の募集から、別途書類を添付する様に改めたらどうかとの意見があった。
- ○ 賞金額について。 討論の結果 10 万円 / 人とする事で了承した。
- ○ 賞状の文面について、原案が示され、議論を行った。最終的に、それらの意見をふまえて、選考委員会が文面を決定することにした。

加えて、CRC 実行委員会委員長印を作成することが了承された。

◆ (4)2003 年第 28 回宇宙線国際会議

組織委員会梶田氏より準備進展状況の説明があった。

5 月：ＩＵＰＡＰへサポートの申請を行った。

8 月：天文学会の後援を得た。

9 月：応用物理学会の後援を得た。

今後 1 ヶ月の間に、学術会議への共同主催依頼申請を行う。その結果は 12 ~ 3 月になる予定。

4500 万円程度の予算規模での開催を計画している。

◆ (5) 物理学会におけるシンポジウム・特別講演

春の年会において、宇宙塵関係として「 宇宙物質の最前線 (仮題) 」を検討中 (長谷部)。更に、その後の秋の分科会においては、特別講演として、インド OOTY 実験関係を取り上げる事を検討中 (西嶋)。　以上の件は次期世話人中畑氏へ申し送り済み。

◆ (6) 宇宙線研共同利用運営委員会報告について。

同委員会報告が伝わってこないことが指摘された。CRC News で速やかに報告がなされることを申し入れることにした。

◆ (7)CRC 総会 (9/23) 準備に関して

(a) CRC 総会議長の推薦: 宗像一起 (信州大) を推薦することとした。

(b) CRC 事務関係の報告

(c) OB・OG 会員制: 総会にて意見を求め、その集約をすることとする。

(d) CRC 関連大学の活性化:　総会にて、第 1 回実行委員会における議論を報告し、その中で提起されたアッピ ールを出すことを念頭に置いて議論する。

◆◆◆

・「CRC 事務局」との連絡、 ・ホームページの管理、 CRC 選挙事務。

◆ 報告 2 . 宇宙線研究所 (戸塚 所長)

(a) 人事；CANGAROO, Tibet, Super-K 関係人事公募を締め切り、現在審議中。
(b) 平成 13 年度文部科学省概算要求に宇宙線研究所関係の事項は含まれなかった。
(c) 学術審議会の特定研究領域推進分科会宇宙科学部会において「我が国における天文学研究およびよび宇宙科学について」の審議が始まった。宇宙線研究所の将来計画である「Telescope Array」が議題に上がる。また「Large Cryogenic Gravitational-wave Telescope」も審議される可能性がある。積極的なご支援をお願いしたい。
(d) 柏キャンパス移転記念シンポジウム 10 月 11,12 日に開催する。
(e) 柏キャンパス研究棟竣工記念式典および祝賀会を 10 月 13 日に開催する。
(f) 共同利用研究成果報告会を 12 月 26 日, 27 日に開催する。
(g) 東大が定年延長を決定した。これに伴い、各部局は任期制導入を早急に検討することとなった。
(h) 次期所長の選考を始める。
(i) 外部評価委員会の審議結果を印刷公表した。

◆ 報告 3 . 原子核専門委員会、物理学研究連絡委員会 (湯田委員)

(詳細は 資料 2 をご参照下さい)

物理学研究連絡委員会 (第 17 期、第 9 回) が平成 12 年 5 月 12 日 (金)、日本学術会議大会議室にて開催された。以下に、宇宙線に関係のある部分について報告する。

〇平成 13 年度科研費審査委員候補推薦について (報告)

前回委員会の決定に基づき、物理学会、放射光学会、生物物理学会、流体力学会、高圧力学会、結晶学会、結晶成長学会、応用磁気学会、プラズマ核融合学会、レーザー学会、形の科学会、原子衝突研究協会の 12 学協会に候補者の推薦を依頼した。このうち、結晶成長学会、応用磁気学会、レーザー学会を除く 9 学協会から候補者の推薦があった。このうち、第 2 段審査委員候補者 (物理学会推薦) については、委員長、原子核、物性、物理学一般専門委の委員長が協議し、学会推薦通りに推薦することを決めた。第 1 段審査委員については、各細目ごとに担当する専門委員会で審議し、候補者が決定された。

〇 ITER 計画 W.G. 報告について次の方針が承認された。

物研連、核科学総合研連核融合専門委員会合同 WG の報告書とし、ここでの議論のまとめを委員長メモとして付して第 4 部へ提出することを認める。学術会議全体へはまわさない。第 4 部会より上には出さない。核科学研連は複合 領域であるが、委員長は第 4 部所属なので、部内にとどめる。

〇物理教育について

物理教育小委員会からの報告について、最初に覧具委員から経緯の説明があり、続いて兵頭小委員会幹事からの報告書の説明があった。

〇次期物研連委員選出の方法について

従来の方法は次の通り。

(1) 物理分野選出の会員 (5 名)。
(2) IUPAP 役員、内 12 名は IUPAP 専門委員会 (定数 12) の委員。他は専門分野に応じて物性物理、原子核、物理学一般のいずれかの専門委員になる。
(3) 日本物理学会からの推薦。IUPAP 以外の 3 専門委員会に各 8 名。
(4) 研究グループからの推薦。(物性物理、原子核専門委員会の場合)。
(5) 他研連からの推薦。

原子核専門委員会の定数 (25 名) は (1)-(4) により充足される。物理学一般専門委員会の定数 (17) は、(1)-(5) により充足される。尚、国際組織の役員が研連委員になる場合、研連委員の 4 期以上の就任禁止の規則は適用されないという例外規定があるが、物研連としては IUPAP の役員および各 commission の委員全員にこの例外規定が適用されるものとして理解する。

◆ 報告４. 大阪大学・核物理研究センター (RCNP)、及び名古屋大学・太陽地球環境研究所 (STE 研)
(増田・STE 研)

(阪大・RCNP)

○ SPRING8 との共同研究を進めている。

○古いスペクトロメータ RAIDEN,CARP の処置について検討中である。

(名古屋大・STE 研)

○人事　　；H12.6.1 - さこ 隆志氏 (助手)
H12.8.1 - 湯田 利典氏 (教授)

○外国人客員；H12. 9.1 - 12.31 E.Fluckiger
H12.10.1 - H13. 1.31 Kh.Arslanov
H13. 2.1 - 5.31 I.Axford

○外部評価を実施することになった。

○将来計画シンポジウムを開催する。；H12.11.13 - 14

◆ 報告５. NASDA 等 (松岡・宇宙開発事業団)

○ NASDA, ISAS など 3 機関からなる運営本部の設置

○今後の予定

(ISAS)

2004 ASTRO-E II 打ち上げ。

2005 SOLAR-B 打ち上げ。

(NASDA)

2003 JEM 建設開始

2004 SELENE 打ち上げ。

◆ 報告６. 第 28 回宇宙線国際会議 (梶田・ICRR)

○ 準備状況

2000/08 天文学会と応用物理学会の後援を得た。

◆ 報告７. 実行委員会報告 (坂田委員長)

(a) 新入会者

竹田 成宏 (宇宙線研 学振研究員)、(推薦者); 福島正己、手嶋政廣
(研究歴)；明野の AGASA データ収集システムを構築。AGASA データを解析し、
GZK cutoff を越えるエネルギーの宇宙線の存在を発表。
現在、TA のオンラインデータ収集ソフトウェアを担当。

寺田 聡一 (計量研究所 技官)、(推薦者); 黒田和明、大橋正健
(研究歴)：レーザー干渉計型重力波検出器の開発 (学部・修士 @学習院大学、
博士・学振 @国立天文台)
干渉計を用いた距離計の校正 (計量研究所)

林　清一 (甲南大理 D1)、 (推薦者); 梶野 文義、坂田通徳
(研究歴)；ユタの 7 素子テレスコープグループで、Mkn501 からの TeV ガンマ線
データを解析し、24 日周期の統計的評価を行なった。
現在、Cangaroo グループで CANGAROO ー III の駆動系を担当。

(b) 退会者

菅野 常吉 (福島市)

(c) 名誉会員制度の新設

65 才以上の方から退会の申し出のあったときにお願いする。名称は「OG・OB 会員」とする案が出ている。次回学会での総会で決定すること等を検討している。

◆ 報告 8 . 宇宙線物理学奨励賞 (事務局 水谷)

第 1 回 (2000 年度) 宇宙線物理学奨励賞受賞候補者の募集要領が決まった。

1 . 推薦締切　　2000 年 10 月 31 日

2 . 対象者及び論文

1995 年 4 月 1 日より 2000 年 10 月 31 日の間に公表された論文 (要綱参照のこと) で公表時の対象者の年齢が 35 才以下であること。

3 . 推薦・応募手続き

添付の推薦・応募用紙に必要事項を記入し、対象論文の別刷りまたはコピー 1 部と共に下記に送付・提出のこと。

4 . 提出先　　CRC 事務局

宛て先氏名　：　水谷 興平

宛先住所　　：〒 338-8570 浦和市下大久保 255　埼玉大学　理学部

電話　　：048-858-3376

(問い合わせは CRC 事務局 埼玉大学　水谷 興平

e-mail : mizutani@cr.phy.saitama-u.ac.jp、　電話 : 048-858-3376)

5 . 発表　　2000 年 12 月中旬、CRC ニュースにて発表 (予定)

****

◆ 議題 1 . 「 大学の活性化について 」

CRC としてこうして欲しいということをまとめたいとの議長の言葉を受けて議論に入った。

[討 論]

○ 現在、宇宙線はアクティブでない。かっては条件のよくない地方大学に存在してきた。現在、ほとんどの大学が停滞している。大学が力量を発揮するには共同利用研の役割が大きい。共同利用研をどうしていくのか、CRC がきちっとやれない限りうまくいかない。

○ 具体的に活性化する方法の一つとして、これまでは特定領域研究をとって研究会を開いて議論してきた。理論や周辺分野も入ってオープンに議論してきた。学生も参加して刺激を受けてきた。今後もこの様なことが続けられる様に、CRC 主導で特定領域研究を要求して欲しい。

○ 賛成である。宇宙線研究はますます発展すると思う。次期プロジェクトを練る作業をその様な環境で進めるとよい。特定領域研究を準備する作業を始めて欲しい。

○ 巨大計画は研究所で進め、大学ではなるべく独立した計画を進めるべだ。多様化が大切であり、多様性がなくなればその分野は硬直化する。特定領域研究でも大きい研究所より大学の方が認められやすい。

★　ほかに意見があればメールか手紙で事務局または実行委員会に寄せてもらうこととし、これらを含んで実行委員会で検討することになった。

◆ 議題 2 . 「 CRC および実行委員会の運営 」

実行委員長より今後の運営方法について意見を聞きたいということで議論した。

[討 論]

○ 毎年選挙で委員が交代するのは議論の継続性がなくなるのではないか。

○ 選挙の方法を変えるべきだ。政策論争をしてのち選挙するとよい。それなら任期は 2 年でもよい。

○ 推薦するとき推薦理由を記すとよい。

○ 1 年で変わるから形骸化するのだ。

○ 4- 5 年続いてもよい。変わりすぎると改革もできない。

などの意見が出された。

★　これらを考慮して実行委員会で議論していくことになった。

(以 下　本 号 資 料)

(資 料 1)　CRC 情報サービス 関係

(a)CRC 活動 関係

(1) 4 月 06 日; 平成 11 年度第 3 回 CRC 実行委員会議事要録
(2) 4 月 12 ~ 26 日; CRC 選挙
(3) 4 月 13 日; CRC 連絡誌 No.280 発行郵送
(4) 5 月 01 日; CRC 選挙開票
(5) 5 月 08 日; 会員名簿調査
(6) 5 月 23 日; 平成 11 年度第 4 回 CRC 実行委員会議事要録
(7) 5 月 23 日; 平成 11 年度第 2 回 CRC 総会議事要録
(8) 6 月 26 日; CRC 連絡誌 速報- 1 号 発行郵送 (非メール会員 71 名のみ)
(9) 7 月 15 日; 平成 12 年度第 1 回 CRC 実行委員会
(10) 9 月 05 日; (会報) 第 1 回 (2000 年度) 宇宙線物理学奨励賞 受賞候補者の募集
(11) 9 月 05 日; (会報) 平成 12 年度第 1 回 CRC 実行委員会議事要録
(12) 9 月 18 日; CRC 連絡誌 No.281 発行郵送 (上記募集要領推薦用紙添付)
(13) 9 月 18 日; CRC 連絡誌 速報- 2 号 発行郵送 (非メール会員 67 名のみ)
(14) 9 月 22 日; 平成 12 年度第 2 回 CRC 実行委員会
(15) 9 月 23 日; 平成 12 年度第 1 回 CRC 総会
(16) 随　時　; CRC News 配信

(b)「 CRC News 」メール配信 (No.133 ~ No.181; 計 49 件)

- 委員会報告；3 件
  - 4 月 25 日、大阪大学核物理センター (RCNP) 運協報告
  - 6 月 23 日、ＫＥＫ運協報告
  - 8 月 09 日、第 17 回素核研 (KEK-IPNS) 運協報告
- 公募案内；8 件 (項目の詳細は略す)
- 研究会案内；15 件 (項目の詳細は略す)
- その他のお知らせ；15 件
  - 4 月 13 日、柏の宇宙線研の CRC 会員の連絡先
  - 4 月 18 日、連絡誌、選挙、会費 のお知らせ
  - 4 月 19 日、CRC 選挙のメール選挙用紙配信
  - 4 月 25 日、CRC 選挙の投票の呼びかけ
  - 5 月 08 日、CRC 会員名簿確認メール
  - 5 月 10 日、平成 12 年度 CRC 選挙の開票結果
  - 5 月 12 日、CRC 会員名簿の更新のお知らせ
  - 5 月 19 日、CRC 会員名簿の更新のお知らせ
  - 5 月 26 日、「 ICRR ニュース 」40 号のお知らせ
  - 7 月 17 日、秋の物理学会プログラムの概略
  - 7 月 28 日、日本物理学会第 55 回年次大会で託児室が開設
  - 8 月 10 日、CRC 会員名簿更新のお知らせ
  - 9 月 04 日、訃報 ; シカゴのシンプソン氏御逝去
  - 9 月 06 日、CRC 総会 開催のお知らせ
  - 9 月 18 日、物理学会事務局より講演時間変更のお知らせ
  - 随　時　、CRC News の追記 及び一部訂正 4 件

(資 料 **2**) 物理学研究連絡委員会 (第 **17** 期、第 **9** 回) 議事録 (案)

日　時 : 平成 12 年 5 月 12 日 (金)
場　所 : 日本学術会議 大会議室

1. 諸報告
   1) 学術会議関係 (長岡)
      前回以降、総会、部会は開かれていない。
      (1) 2002 年開催の学術会議共同主催の国際会議として、物研連が推薦した第 23 回低温物理国際会議が採択された。
      (2) 委員長として、各学協会に科研費審査委員候補者の推薦を依頼した。
   2) 各専門委員会
      (1)IUPAP 専門委員会 (郷)
      1-1.IUPAP Special Working Group for the Future of Neutron の安岡委員から、この W.G. の最近の動きの報告があった。この W.G. の第 13 回の会議が今年 11 月、筑波あるいは東海で開かれる。この W.G. の活動を強化するために中性子線源以外をも扱う Ad hoc working group for international cooperation in large facilities for condensed matter physics を立ち上げつつある。
      1-2. 学術会議研究連絡委員会委員の任期は 3 期までとなっている。国際組織の役員は例外として 5 期まで認められているが、この 6 月に開かれる総会で、この 5 期の制限を はずす決定がなされる見通しである。IUPAP の各 commission の member 等は、従来、物研連委員に任命することにしていたが、来期 (第 18 期) もその方針で行くことを確認した。物研連としては、これらの member 等は国際組織の役員であるとの認識で行く。
      (2) 物性専門委員会 (興地)
      2-1. 物性研、基研、金研、物構研、物性グループ事務局から現状報告があった。
      2-2. 科研費審査委員候補者 (固体物性 I,II, 物性一般) の推薦については物性専門委員会で既に承認を得ているメンバーで行なった。尚、メンバーは専門委員会の幹事 3 名と委員長を含む 6 名であり、物理学会、結晶学会、結晶成長学会、放射光学会、応用磁気学会に候補者の推薦を依頼したが、結晶成長学会、応用磁気学会からの推薦はなかった。
      2-3. 物性専門委員会から出す予定の対外報告「 物性研究拠点整備計画の具体化に向けて 」の審議を時間をかけて行なった。その結果、これを物性専門委員会の対外報告にすることを専門委員会としては決めた。
      2-4. 将来計画との関係で大強度陽子加速器計画の現状報告を永宮氏に、東大高輝度光源計画の現状報告を寿栄松氏にしていただいた。後者の話は 12 日の全体会議でもして頂きたい旨、物性専門委員会から寿栄松氏に依頼した。
      2-5. 物研連委員の推薦のあり方については次期の委員会で議論して頂くことになった。
      (3) 原子核専門委員会 (山田 (作))
      3-1. 研究所報告、各グループ報告、国際交流関係の報告があり、意見交換を行なった。
      3-2. 将来計画として、JLC の現状報告を岩田氏に、JHF の現状報告を永宮氏にお願いした。
      3-3. 科研費審査委員候補の推薦については、物理学会からの推薦に対して若干の調整を行なった。
      3-4. 来期の引き継ぎ事項を検討した。
      (4) 物理学一般専門委員会 (江沢)
      4-1. 標準研連からの報告があった。
      4-2. 物理教育小委員会からの報告があった。
      4-3. 科研費審査委員候補の推薦を議論した。
      (5) その他

5-1. 応物研連 (川久保)

JJAP の問題 (予算、投稿の量、質、物理学 4 誌の電子化出版) に関連して、物理学学術誌刊行協会 (IPAP) の構想が報告書の形で出される。日本からの欧文誌、欧文書の発行の必要性を学術会議で強調して欲しい。

5-2. 標準研連 (清水)

配布資料「 標準の研究体制の強化についての再提言 」と第 16 期の提言の効果についての説明があった。「 標準 」を科研費の細目に含める必要性については午後の議題とする。

1. 議題

1) 前回議事録承認

一部修正の上承認された。

2) 平成 13 年度科研費審査委員候補推薦について (委員長)

前回委員会の決定に基づき、物理学会、放射光学会、生物物理学会、流体力学会、高圧力学会、結晶学会、結晶成長学会、応用磁気学会、プラズマ-核融合学会、レーザー学会、形の科学会、原子衝突研究協会の 12 学協会に候補者の推薦を依頼した。この内、結晶成長学会、応用磁気学会、レーザー学会を除く 9 学協会から候補者の推薦があった。この内、第 2 段審査委員候補者 (物理学会推薦) については、委員長、原子核、物性、物理学一般専門委の委員長が協議し、学会推薦通りに推薦することを決めた。第 1 段審査委員については、各細目ごとに担当する専門委員会で審議し、候補者が決定された。

3) 科研費時限付細目について

清水委員から、標準研連についての報告と関連して、「 標準 」とい細目を設けることを 5 部からは提案されることになっているが、4 部からも出されることが望ましいとの提案があった。

4) 物性物理専門委員会対外報告

最初に委員長から次のような説明があった。

専門委員会による対外報告は、前期までは認められていなかったが、専門委員会の活動を奨励するという立場から、認められることになった。「 物性研究拠点整備計画 」は前期物研連からの対外報告として発表された。今回の報告はその具体化を目指すものであるが、その内容から物性専門委員会の対外報告とすることが適当と考えた。

5) 各分野の将来計画について

(1) 物性分野

興地物性専門委員長から、拠点整備計画とならんで、大型施設計画も議論しているが、その一つである「 真空紫外線 軟 X 線高輝度光源計画 」について寿栄松氏に説明をお願いしたいとの申し出があり、承認した。続いて寿栄松氏から、東京大学高輝度光源研究センター (仮称) の下で上記の計画が考えられていることとその内容 (配布資料) の説明がた。

これに対し、次のような質疑応答があった。

永嶺　：予算、建設年度は?
寿栄松：約 200 億円、3 年で完成する予定。
郷　　：他の Photon Factory との関係は?
寿栄松：他とは強度が桁違いである。例えば東北大から提案されているものは地域を対象にしているのに対し、これは全国共同研究である。先端的技術開発も含んでいる。
江沢　：SPring8 の低いスペクトルの部分を使えないのか?
寿栄松：効率に問題がある。
松岡　：国際共同利用の可能性は?
寿栄松：計画が実現するば、国際協力も考える。
永嶺　：人員体制は?
寿栄松：固有スタッフ、物性研を含む技官、まわりのユーザーの支援も期待している。

(2) 原子核分野

原子核分野の将来計画として、リニアコライダー (JLC) 計画の現状報告を岩田氏にお願いし、説明 (配布資料: JLC 計画) を聞いた。それに対して、次の様な質疑応答があった。

政池：国際協力は?
岩田：計画は各地域で進めている。実現のためには国際協力は不可欠である。
郷　：予算的に世界で唯一ということか?
岩田：その通りだが、できるだけ少ない予算を心がけている。
郷　：理論的には 3 年程度で実行に移せるとのことだが、どの計画も同じ様に進んでいるのか?
岩田：難しい質問で、答えられない。
郷　：他への応用は? 学術的要素はあるのか?
岩田：X 線源として使える。
岩田：まだそこまでは行なっていない。
政池：国際協力で進める努力も続けてほしい。
山田 (作)：建設を国際協力で進める方策は ICFA で検討中である。
岩田：FEN 関係では、DESY,SLAC,KEK の間で検討している。
郷　：他分野への情報提供は重要である。節目には報告をお願いしたい。

6) ITER 計画 W.G. 報告について

政池委員から報告書 (配布資料) の内容説明、永嶺委員から補足説明があった。
その要旨は次の通りである。

ITER 計画検討ワーキンググループ報告 (政池)

前回の物研連での現状報告の後、WG で議論を重ね、昨日報告書の最終的な合意に達したのでその内容を報告する。

WG は、「計画を推進して来た当事者」と「計画に直接関係していない物研連のメンバー」で構成されているため、WG 報告を作成することは困難な作業であったが、最終的には当事者の方々にも我々の考え方をかなり理解してもらえたので、報告書としてまとめることが出来た。我々物研連側のメンバーとしては、物研連 WG の提案を受けてこの WG が発足したこともあり、出来るだけ物研連の議論を報告書に反映するように努力したつもりである。

尚、この WG では ITER 計画とエネルギー問題との関連については議論していない。

長岡: 今後の進め方としては、次のことを提案したい。

イ. 物研連、核科学総合研連核融合専門委員会合同 WG の報告書とし、ここでの議論のまとめを委員長メモとして付して第 4 部へ提出することを認める。学術会議全体へはまわさない。第 4 部会より上には出さない。核科学研連は複合領域であるが、委員長は第 4 部所属なので、部内にとどめる。

ロ. 委員長メモは、政池、永嶺両委員と相談して、委員長の責任で作成する。メモは後に物研連委員に配布する。

この提案を承認した。

7) 物理教育について

物理教育小委員会からの報告について、最初に覧具委員から経緯の説明があり、続いて兵頭小委員会幹事からの報告書の説明があった。

8) 次期物研連委員選出の方法について

長岡委員長より次の様な提案があり、承認された。

次期物研連の組織は物理分野選出の次期会員の責任で行なわれるが、今期物研連からの申し送りがとくにない限り、従来通りの方法で委員の選出がなされると思われる。

従来の方法は次の通り。

(1) 物理分野選出の会員 5 名
(2) IUPAP 役員、うち 12 名は IUPAP 専門委員会 (定数 12) の委員。他は専門分野に応じて物性物理、原子核、物理学一般のいずれかの専門委員になる。

(3) 日本物理学会からの推薦。IUPAP 以外の 3 専門委員会に各 8 名。
(4) 研究グループからの推薦。(物性物理、原子核専門委員会の場合)。
(5) 他研連からの推薦。

原子核専門委員会の定数 (25) は (1)-(4) により充足される。物性専門委員会 (定数 21) では (1)-(4) により 19 名程度までを選任し、残り 2 名程度は専門委員会発足後、委員会における協議により決める ((5) による委員を含む場合がある)。
物理学一般専門委員会の定数 (17) は、(1)-(5) により充足される。
(5) に関しては、IUPAP 役員の構成を考慮しながら、応物研連、標準研連との関連を重視する。但し、他研連から推薦された委員の所属はその方の研究分野によって決める。
尚、国際組織の役員が研連委員になる場合、研連委員の 4 期以上の就任禁止の規則は適用されないという例外規定 (従来は 5 期までの制限があったが、今回その制限も撤廃される。) があるが、物研連としては IUPAP の役員および各 commission の委員全員にこの例外規定が適用されるものとして理解する。

9) 次期物研連への申し送り

委員長から、次の点を申し送りたい旨の発言があり、承認した。

(1) 科学研究費審査委員候補者の推薦。

平成 14 年度以降も日本物理学会以外の学協会への候補者推薦依頼は継続する。
但し、どの学協会へ何名の候補者の推薦を依頼するかは平成 13 年度を参照しながら、各細目ごとに再検討する。

(2) 審議状況の公開。

議事録についての情報公開の方法を検討をする。今期、学会誌への審議状況の報告が不十分であった。報告が遅滞なくなされるように、物研連としての体制づくりが必要である。

(3) 物研連委員選出の方法。

日本物理学会以外の学協会への委員の推薦を依頼すべきかどうか。その他、従来からの選出方法の再検討を必要と判断する場合は、早期に検討を始めてほしい。

(4) 物理教育問題の検討の継続。

今期発表した対外報告では今後検討すべき問題が多く残されている。
小委員会を設置するなどして検討を継続することが望まれる。

◆◆

◆◆◆ **CRC Homepage 速報-150 ， CRC News No.206 ; 2000 年 11 月 27 日配信** ◆◆◆

********** < **第 18 回 KEK 運協報告** > **********

（文責　村木　綏）

日　時：10 月 31 日　11:00 ~ 16:00
報告事項
◎ 機構長報告 (菅原)
＊学術審議会の新プロ COE 委員会の H13 年度開始プロジェクトの採択結果の報告があった。
・電子相関ネットワーク (物構研)、言語理解と行動制御 (東工大)、生体内分子科学 (岐阜大)、ボーダレス時代における法システム (岩井先生) の 4 件を認めた。 また新プロのテストケースとして、高度文明社会におけるグリーン化学 (野依先生), 脳の神経的アプローチ (鳥取大) の 2 件を採用した。
＊独立法人財務会計委員会の報告があった。
・特別会計を存続させるかどうかが、大きな問題となっている。
・運営交付金の基準、合理性を検討した。
・企業会計で行う。
・高等教育に対する支出が少ない。
・しかし、まだ財政強化策は見えてない。

＊フェルミ研でリニアーコラーダーの今後の進め方についてのミーティングがあった。その際、各研究所長が集まってニュートリノファクトリーを作るための MOU 起草委員会を作ることになった。KEK から中村健蔵氏、森氏がでる。その結果を 2 月の ICFA に報告してもらうことになった。

◎ 所長報告 (山田) 他
＊高エネルギー 国際会議が、大阪で約千人の参加者を集め成功裡に終了した。
＊ DESY が EXPO の一貫として TESLA 施設の展示をしていたが、広い PR に関して今後日本としても学ぶことが多かった。
＊ LC-PAC のフォス先生がブリンクマン先生 (DES Y) に交代した。
＊田無では放射能除洗作業が継続しているため、まだ放射線安全センター職員一名が滞在している。Cs の除染は完了したが、トリチウム汚染の処理をしている。この点について、科技庁、近隣住民始め関係方面には逐次報告している。

協議事項
◎ 陽子加速器実験審査委員会 (PS-PAC) の改選をした。
所外委員として　久野、相原、鈴木、初田の各氏を、所内委員として　徳宿、作田の各氏を選んだ。

◎ COE 研究員人事の進め方について議論した。
恒常的な委員会を作り、随時人事を進め、その結果を運協に報告することになった。

◎ 教官人事について
PS 実験企画調整の AP として家入氏、PS レプトン物理の AP として吉村氏を選んだ。

◆◆◆

日本学術会議の会員である佐藤文隆氏が研連立ち上げ委員として議事進行役をする。

1：新委員自己紹介
2：委員長及び幹事選出
　立候補される方がなく、前委員長山田作衛氏の推薦で、欠席であるが矢崎紘一氏に委員長をお願いすることにした。続いて全体の幹事に高崎を選出した。
また理論、宇宙線、高エネルギー、原子核の幹事として、二宮、村木、高崎、今井を選出した。

3：研究所報告
3-1) 基研（報告者：二宮）
- 人事選考中；宇宙物理学教授又は助教授、素粒子論助教授各 1 名（任期はいずれも 5 ~ 10 年）採用；COE 非常勤研究員 3 名を追加採用、計 7 名となる

3-2) 宇宙線研究所（報告者：木舟）
- Tibet AS, Super-K, Cangaroo についてそれぞれ助教授、助教授、助手を採用、
- 次期所長の選考開始
- H13 年度概算要求：宇宙線望遠鏡計画：文部省留り。H14 年に再挑戦
- 柏キャンパス竣工披露（10 月 13 日）
- 学術審議会宇宙部会で宇宙線望遠鏡及び大形低温重力波望遠鏡の議論を開始
（＊ 前者が概算要求の上での優先順位は高い）
- 独法化のなかで共同利用研の存在意義をと財政基盤について議論してほしいとの要望

3-3) 素核研（報告者：高崎）
- PS 部門で助教授 2 名を採用、COE：若干名公募中（理論、実験共に）
（＊機構全体で COE の数は 34 名）
- KEKB は運転を 10 月 10 日より再開、現在までの最高ルミノシティは 2×10^{33}(設計値の 1/5)、Belle 積分ルミノシティ 8fb-1 を蓄積、来年夏まで正月休みを除いて運転。
- PS は固定標的実験中、K2K は 1 月から。
- 概算要求は、JHF 立ち上げのために 7 億減額。
- 大阪での国際会議はほぼ 1000 名の参加で成功裏に終了、すばらしい運営が絶賛された。
大阪地区の関係者に感謝

3-4) 核物理センター（報告者：佐藤健次：永井泰樹センター長代理）
- 人事 (核理論助教授、核実験助手) 決定、核理論助教授 (9 月 4 日〆切) 現在審議中。
また、助教授 1 名が H13/1 月に転出予定。　外国人 COE 研究員: RCNP 全体で 17 名（新規 9 名，継続 8 名）: このうち，核理論今年度 9 名（新規 4 名，継続 5 名）。
若手 COE：全体で 5 名 (その内 2 人が核理論)
- 国際会議（GR2000：6 月と Spin2000：10 月）の会議を無事終了
- Spring8 での Backsacttered photon beam、大塔コスモ観測所、Cyclotron 等が動きだした。
Backsacttered beam は 10MeV のエネルギー幅で 2.4GeV photon が $2.5 \times 10^6/sec$。
これを使って K, pi, phi (K+K) の生成を確認。
一方、Cyclotron は相対エネルギー幅 4.5×10^{-4}で 400 MeV のビームを出す。
BPAC（Cyclotron 実験課題採択審査委員会）で 12 件 60 日分の課題を採択．Spring8 施設の共同利用のやり方について検討する必要があるとの意見が出された。
- 大塔コスモ観測所では、100Mo の二重β 崩壊実験終了，データを解析中。
暗黒物質探索実験：CaF 及び NaI 検出器を用い，現在，進行中。　太陽ニュートリノ問題に関連した太陽熱核反応 3He（3He，2p)4He の断面積測定装置が完成し，予備実験に成功。
- 2002 に IUPAP 主催で国際会議 PANIC を大阪で開催する。
- 来年、阪大創立 70 周年に合わせて核物理センター設立 30 周年記念行事を行う。
　< Spring8 における Laser-backscattered photon の性能についての補足 >

最高 ビーム強度：1E7/sec での運転が許可された．
最高エネルギー：　2.4GeV または，それ以下．
エネルギー標識化可能領域：　1.5GeV - 2.4GeV．
エネルギー分解能：　15MeV（標準偏差）．
偏極：　直線偏光または円偏光．

このプロジェクトは高輝度放射光科学研究センターと核物理研究センターとの共同研究契約のもと，核物理研究センターが全国研究者の共同利用の窓口となるものである。しかし，現在，共同利用実験のための旅費などが予算化されておらず，また，核物理研究センターの専任研究者の数が限られているため一定の制限があるが、「LEPS 共同利用に向けての提案」に基づいて，平成 13 年度より開始する予定。なお，この「提案」は，現在審議中で最終案でない。

3-5) 素粒子物理センター（報告者：駒宮）
- LEP 実験は Higgs candidates (：2.9 sigma) を確認するために，実験を延長するか否かを近日中に決める。
- COE：１名公募中
- 2 月 18 ~ 21 日：白馬シンポ開催

４：各グループ報告

4-1) 理論関係報告（報告者：二宮）
- 特になし

4-2) CRC 関係（報告者：村木）
- 若手奨励賞を創設
- 12 月 26、27 日に宇宙線共同利用成果発表会を行う。
- 名大太陽地球環境研究所で外部評価委員会を開催、学長より附置研の存在意義を問われている。

4-3) 高エネルギー（報告者：駒宮）
- JLC をどう推進するかを議論中。4 月末に R & D 報告会を開催。現在、LC 推進会議が X-バンド、C-バンド LC、Injector などについての評価の取りまとめを行っている。年内に Milestone を取りまとめる予定。

4-4) 原子核（報告者：永宮）
- 来年秋の 物理学会原子核分会をハワイで日米合同で開催する。
- RHIC (BNL)：６月に１ st collision、その後ザイン値の 10 %まで達した。
- 理研：Phase 1 (2003 年完成), phase 2 (2007 年完成) が予定されており、Phase 2 の予算化が科学技術庁より大蔵に要求。

4-5) 統合計画（報告者：永宮）
- 第三者レビューを終了、ポジティブな評価を得た。
（* 報告書の学術ー科学技術上の意義に学問上の意義を書くべきとの指摘あり）
- H13 年度概算要求 1890 億（原研：1150 億、KEK：740 億）但し、現在は日本新生特別枠を用いて建設着手を要求しており、第１期分として約 1350 億が考えられている。
- 運営体制についてのタスクフォースの設置、産業界との話し合い、地元との様々な話し合いの紹介。60MeV リニアックの建設状況報告
- KEK に新たに専属の事務及び契約担当事務を置く。

５：一般討議

5-1) 素粒子、原子核、宇宙線、宇宙物理関係の科研費の審査委員候補者の推薦を他の研連に依頼するか否かについて議論し、従来通りとすることにした。（物性専門委員会は他の研連に推薦を依頼している。）
（注：科研費の審査委員の候補者の推薦の推薦について、従来物研連が物理学会に推薦を依頼

し、そのリストをそのまま文部省・学振に推薦リストとして提出してきたが、昨年は物理学会から物研連に推薦されてきた候補者を、物研連の核専委が一部調整してから、学振に推薦をしました。)

5-2) 情報公開

核専委の活動を Web で見られる様にしては、という意見があったが、当面、電子メールで情報を流すことにし、学術会議のネットが Homepage 整備されたら、そこにリンクすることにした。

5-3) 今期の学術会議の活動方針について

佐藤氏が、配付資料「日本学術会議第 18 期活動計画」に基づいて日本学術会議第 18 期活動計画の説明をする。吉川会長の強い意向で、「俯瞰的な視野にたった研究の推進」を大きな柱とし、2 つの課題、1)人類的課題の解決のための日本計画の提案、2)学術の状況ならびに学術と社会との関係に依拠する新しい学術体系の提案、に取り組む。学術会議には運営審議会が設置され、この下に数多くの常置委員会、特別委員会が設けられ会員がこれに参加して活動をする。学術会議を科学アカデミーにすることを指向している様に見える。

5-4) 今期の委員会で何を議論するかについて自由討論

様々な討論の結果、以下の 2 つの問題について次回以降検討することにした。

1)独法化にともなって共同利用研、附置研に関係して発生すると予想される様々な問題(存在意義、大学での研究との関係、教育問題、財政問題等)。 特に、大学等の研究機関が、研究費の一部を、オーバーヘッドとして取出すと、金を取れる研究のみが生き残り、現在の様に、大型研究への参加を共同利用研の経費にのみ依存していると、大学に金が持ち込めなくなる可能性があり、存続できなくなる恐れがある。

2) Spring8, 理研、原研などの他省庁の機関や特殊法人の施設の共同利用のあり方について。また、65 歳定年と研究の進め方についても議論する。

◆◆◆

安藤恒也、前川禎通、秋光　純、小林俊一、佐藤正俊、松下　正、鈴木治彦、米沢冨美子、
管　滋正、水崎隆雄、後藤輝考、福山秀敏、中村新男、大田 仁、高畠敏郎、張　紀久夫、
西田信彦、倉本義夫、大貫惇睦

物理学一般専門委員会 (定数 17：今回 15 発令)

江尻有郷、松島房和、山崎泰規、江沢　洋、奥野和彦、柳下　明、犬竹正明、多田邦雄、
加藤義章、若谷誠宏、覧具博儀、黒田成俊、西川恭治、渡辺真一、兵頭俊夫

IUPAP 専門委員会 (定数 12)

安岡弘志、安藤　健、郷　信広、潮田資勝、盛永篤郎、戸塚洋二、山崎敏光、山田作衛、
北原和夫、三浦　登、小山勝二、高田俊和

IUPAP 専門委員会出席者および合わせて集積するもう一つの専門委員会

安岡弘志、北原和夫、福山秀敏、三浦　登、安藤　健、高田俊和、潮田資勝 (以上物性)、
山田作衛、永宮正治、戸塚洋二、小山勝二 (以上原子核)、盛永篤郎、山崎敏光、黒田成俊、
兵頭俊夫、郷　信広、犬竹正明、覧具博儀、山崎泰規 (以上一般)

出席者

原子核

土岐　博、大塚孝治、吉村太彦、小林　誠、村木　綏、木舟　正、福島正己、佐藤文隆、
駒宮幸男、黒川真一、大島隆義、近藤敬比古、高崎史彦、武田　宏、永宮正治

物性

安藤恒也、小林俊一、佐藤正俊、松下　正、鈴木治彦、水崎隆雄、後藤輝考、中村新男、
大田　仁、張　紀久夫、

物理学一般

江尻有郷、松島房和、江沢　洋、奥野和彦、柳下　明、若谷誠宏、黒田成俊、西川恭治、
渡辺真一、兵頭俊夫

IUPAP 専門委員会 (定数 12)

安岡弘志、郷　信広、潮田資勝、三浦　登

日本学術会議の会員である佐藤文隆氏が 研連立ち上げ委員として議事進行役をする。

１：新委員自己紹介 (略)

２：委員長及び幹事選出

立候補される方がなく、佐藤文隆氏に委員長をお願いすることにした。
幹事は高崎史彦 (原子核)、安藤恒也 (物性)、兵頭俊夫 (一般) にした。

３：前回議事録の承認

特に意見はなく、承認された。

４：学術会議事務局職員の紹介：中野靖子、鈴木篤の両氏

５：諸報告

5-1：IUPAP 専門委員会報告 (報告者：安岡)

委員長に安岡弘志氏、幹事に北原和夫氏を選出。(IUPAP 専門委員は各専門委員会から推薦される) 統計物理国際会議 (2004 年：神戸) を推薦する。　原子核国際会議 (2004 年) について永宮委員が推薦依頼を検討中。 2 つのワーキンググループ大形研究計画委員会 (ICFA での大形加速器建設、Condensed matter、ICPNS 中性子源など)、女性物理学者問題委員会に委員を派遣する。　女性物理学者問題委員会 (2002 年：パリ) に福山氏を派遣する。なお、各専門委員会の定数配分を見直して、IUPAP 専門委員会の定数を増やしてはどうかという意見がある。

5-2：原子核専門委員会 (報告者：高崎)

委員長に矢崎紘一氏、幹事に二宮正夫、村木、高崎史彦、今井憲一の各氏を選出、このうち高崎は物研連の幹事も兼ねる。科研費の審査委員の候補者推薦については従来通りとする。各共同利用研究所の活動報告、素粒子原始核理論、高エネルギー、宇宙線、原子核の研究分野の報告を行う。今期の活動として、１) 独立行政法人化及び省庁再編に伴う共同利用のあり方や影

響について検討、２）他省庁や法人における施設の共同利用について検討、の２つの問題をまず取り上げる。

5-3：物性専門委員会（報告者：小林）
委員長に小林俊一氏、幹事に管　滋正、前川禎通、福山秀敏の各氏、物研連の幹事に安藤恒也氏、を選出。２名の欠員の内、一人を下村　理氏を選出。残り１名は、応物の推薦を待つ。科研費の審査委員の候補者推薦については従来通りとする。　各共同利用研究所の活動報告を行った。次回の物研連の日時を早く確定して欲しいとの要望が出された。

5-4：物理一般専門委員会（報告者：江沢）
委員長に江沢　洋氏、幹事に兵頭俊夫(物研連幹事も兼ねる)、柳下　明、覧具博儀の各氏を選出。２名の欠員は早急に決める。　補充分野は流体力学と科学史とする。　科研費の審査委員の候補者推薦母体についてはなお検討する。物理教育小委員会活動は今期も継続する。

６：討議
6-1：学術会議についての初歩的な説明（佐藤、郷、江沢）
日本学術会議第 18 期は、本年７月下旬に発足し、２回の総会を開いて活動計画を決定した。現執行部は会長、吉川、副会長吉田、黒川の各氏。会員数 1221 名、このうち女性７名。研究者数約 70 万人。7 部にわかれる。第 4 部は会長大滝、副部長土居、幹事岩槻、郷の各氏である。物研連からの委員は、物理学会の会員による推薦委員会で 6 名（内 1 名は天文研連より）推薦される。佐藤、江沢、郷、小林、米沢の各氏が現委員。学術会議は現在は総理府に所属。省庁再編後は、内閣府に置かれる総合科学技術会議で学術会議をどの様に取り扱うかを議論してからどの様な省庁に属するかが決まる。

佐藤委員長が、配付資料「日本学術会議第 18 期活動計画」に基づいて日本学術会議第 18 期活動計画の説明をする。吉川会長の強い意向で、「俯瞰的な視野にたった研究の推進」を大きな柱とし、２つの課題、１）人類的課題の解決のための日本計画の提案、２）学術の状況ならびに学術と社会との関係に依拠する新しい学術体系の提案、に取り組む。学術会議には運営審議会が設置され、この下に数多くの常置委員会、特別委員会が設けられ会員がこれに参加して活動をする。学術会議を科学アカデミーにすることを指向している様に見える。

２年程前から、学術会議のあり方について、その存続を含めた厳しい議論がされ、自己変革と新たなビジョンを打ち立てることが必要であるとの認識のもとに、この「活動計画」作られたという経過説明があった。

会員から、科学技術会議において、「ゲノム計画」の様に、重点計画として取り上げられると、研究者の意向と無関係に巨額に研究費がついてしまうということがあり、予算が増えるのはいいが、問題も有るとの指摘があった。

6-2：科研費について
細目等の見直しを今年度はしないことにした。来年度の審査委員の候補者の推薦については、２月に候補者の推薦依頼、3 月に現委員の公開、5 月末に推薦という予定。電波科学と宇宙空間研連から物理分野で推薦をしたいとの要望があるが、物研連として委員長が対応する。

6-3：物性研委員の推薦
人事委員会に前川 (金属研) と倉本 (東北大) の両氏を推薦。共同利用委員会に酒井 (都立大)、後藤 (新潟大)、矢ケ崎 (琉球大)、宇田川 (広大)、熊谷 (東大)、佐藤 (都立大)、高柳 (東工大)、中村 (名大) の各氏を推薦。

6-4：国際会議派遣について

各専門委員会で希望を募り、IUPAP 専門委員会と物研連委員長で推薦を調整する。
〆切は 12 月 1 日、推薦枠は実績による。

6-5：Working group for Women in Physics
IUPAP に Workig group あり、10 名で構成。日本に Institute の男性研究者の派遣要請があり、物性研の福山氏に、3 ~ 4 名の女性研究者と共に 2002 年パリ会議に出席して頂くことに成った。

6-6：教育小委員会 (報告：兵頭)
若年層における物理の学力の低下を裏つける客観的なデータがある。この原因の一つに、現在の指導要領に問題がある。即ち、中学で学習するべき物が高校に移され、一方高校では、物理、化学は選択であるので、何も学習する機会がないまま高校を卒業する者が多数出ている。現在高校では約 10 %しか物理を選択していない。

小委員会は、大学人、研究者がもっと教育にコミットする必要性を指摘する。そして次の提言をする。１) 大学人の初等、中等教育に積極的な立ち入り　２) 教科書検定の緩和　３) 入試による影響力行使は慎重に　４) 初等、中等教育の内要に配慮した大学教育　５) これに見合った大学教育体制の整備。この委員会を継続することを承認。連絡窓口は、兵頭、覧具の各氏。

6-7：国際会議推薦
12 月〆切、2003 年宇宙線国際会議、2004 年統計物理国際会議 (7 月 24 ~ 30 日、神戸) を推薦。原子核国際会議については次回に検討。

6-8：情報公開について
物研連でのすての議論、情報は公開される。傍聴の可否は学術会議全体の決定を待って議論する事としたい .

6-9：省庁再編と共同利用研究のあり方について
他省庁や特殊法人の研究施設の利用のあり方について、学術会議からあるべき姿について提言をまとめる方向で一致。Spring 8、理研、宇宙研、原研についての基礎的資料をまず取り寄せることから始めて、次回以降検討する。

6-10：刊行物について
現在、アメリカとヨーロッパの研究誌が研究発表の機会を独占している。日本から情報を発信する研究誌を持つべく努力すべきである。特に、On-line Journal について検討して欲しいとの要望あり。

6-11：若手研究者の養成について
若手研究者なしには学問の発展はない。一方、研究者の適正な数についても検討すべきである。

７：次回：4 月 11、12 日とする。　なお、総会は 4 月 24 ~ 26 日

◆ ◆ ◆

(3) 1×10^7個/秒まで、強度を上げても放射線の許容度をパスした。
(4) 1001 年 8 月締切で第 1 回目の共同利用のビームサービスができるよう準備中。
4 月から Agenda を出す予定。

・1C (板橋) He3(He3、2p)He4 反応の S-factor のデータが出た。

・加速器 (佐藤)
磁場よりも温度コントロールという意識で高精度ビームを作る研究をしている。
加速器全体の温度コントロールを考慮して、現在Δ E/E ~ 5×10^{-4}が実現している。

・理論 (土岐)
RCNP ー理研ワークショップー hadron many problems を開催した。
カラースーパーコンダクティヴィティの結果の紹介があった。
クオークペアータイプの相関を考慮すると大変きれいにバリオンの質量差を再現できる。

・計算機 (清水)
IBM6000/SP 千里 63.6G flops が入った。スーパーコンピューターは SX5 になった。 1 node を RCNP で占有することになった。世界で 405 番目の優れた計算機とランキングされた。
電気代は約 1000 万円。阪大の計算機センターのスーパーコン使用量は約 1200 万円を予定している。

協議事項

・1A の助教授候補として酒見泰寛氏 (現東工大) をセンター長に推薦した。

・次期センター長の選考
今回は次期センター長に課せられた課題を議論した。主なものに、法人化の下での、大学付属共同利用研の在り方、阪大との関係、eA コライダー等。RCNP の将来計画の推薦を積極的にやってくれる人が良いということになった。1 月下旬 ~ 2 月上旬に、候補者を上げ、投票で選ぶことを決めた。京大原子炉の井上氏に司会をしてもらうことになった。

◆ ◆

◆ ◆ ◆ **CRC Homepage 速報-160 ， CRC News No.216 ; 2001 年 01 月 18 日配信** ◆ ◆ ◆

**** < 第 1 回 (2000 年度) 宇宙線物理学奨励賞の受賞者発表 > *****

CRC 会員各位

第 1 回 (2000 年度) 宇宙線物理学奨励賞の受賞者が下記の様に 奥村公宏氏 と 竹田成宏氏の 2 人に決まりました。奥村公宏氏 は今春 3 月の中央大学での物理学会にて、また竹田成宏氏は 今秋 (沖縄) の物理学会にて各々特別講演を行ないます。

CRC 実行委員長　坂田 通徳

****

受賞者と論文について　　受賞者; (50 音順)

○奥村 公宏 (Okumura, Kimihiro) 氏
(東京大学宇宙線研究所ＣＯＥ研究員)
対象論文 (1999 年 3 月公表)
題目 「 Observation of atmospheric neutrinos in Super-Kamiokande and a neutrino oscillation analysis 」

○竹田 成宏 (Takeda, Masahiro) 氏
(日本学術振興会奨励研究員 東京大学宇宙線研究所)
対象論文 (1998 年 3 月公表)
題目 「 Extremely high energy cosmic rays observed with AGASA: Energy spectrum and arrival direction distribution 」

◆◆◆

(b) 会計報告 (2001.02.09 現在 概算)

会費完納者； 243 名 (78 %)

残　金　　； 80 万円

支出予定　； 連絡誌 25 万円 + 奨励賞 20 万円 = 45 万円

(c)「CRC News」メール配信

- 委員会報告；8 件
  - 10/30; 宇宙線研共同利用運営委員会
  - 10/31; (会報)CRC 実行委員会
  - 11/21; 原子核専門委員会
  - 11/21; 物理学研究連絡委員会
  - 11/27; KEK 運協
  - 11/27; 阪大核物理センター運協
  - 1/05; (会報)CRC 総会
  - 1/18; (会報) 宇宙線物理学奨励賞受賞者発表
- 公募案内；11 件 (詳細は 資料 1 をご参照下さい)
- 研究会案内；17 件 (詳細は 資料 1 をご参照下さい)
- その他のお知らせ；4 件 (詳細は 資料 1 をご参照下さい)

---

(2) 次期 CRC 事務局について (坂田)

弘前大学にお願いし、内諾を得たとの報告があり、それを了承した。

---

(3) 委員会報告

(a) 宇宙線研共同利用運営委員会 (坂田)

- 次期宇宙線研所長　吉村太彦氏 (現在 東北大学理学部教授)4 月 1 日より就任予定。
- ＴＡ計画が学術審議会特定領域推進分科会宇宙科学部会において「(A) 準備は整っており、早急に実現に向けて推進すべき計画」に位置づけられた。　同じく、アタカマ大型ミリ波サブミリ波干渉計 (ALMA) 計画が (A) ランクの計画となった。
  大型低温重力波望遠鏡 (LCGT) 計画は「(B) 当面は技術開発を強力に推進し、早期に着手を目指す計画」と位置づけられた。
  詳しくは学術審議会の Homepage に掲載されるはずであるのでそれを参照されたい。
- 宇宙線研外部評価結果報告誌が発行された。
- 人事：河内明子氏 (高エネルギーガンマ線宇宙物理学) 助手
  伊藤好孝氏 (ニュートリノ物理学) 助教授
  瀧田正人氏 (高エネルギー宇宙線物理学) 助教授
  それぞれ就任。
- 共同利用研究成果発表会が 2000 年 12 月 26 日 27 日に開催された。

(b) 高エネ研運営協議会 (村木)

- 次期計画として KEK-原研の joint project である JHF 計画が認められた。
  (予算 第一期分 1335 億円)。　また関連計画として理研 RI リングサイクロトロン計画 (予算：約 700 億円) が認められた。

(c) 阪大核物理センター運営協議会 (RCNP) (村木)

- 次期センター長選考が行われ、4 月 1 日からのセンター長に土岐博氏 (RCNP) が選出された。RCNP に教授会ができたので、それに伴うセンターの規則の改定が運協で承認された。
  改定されたのは運営委員会規定とセンター長選考規定である。

(d) 名大ＳＴＥ研 (村木)

- 客員教授 Axford 氏が 5 月 31 日まで滞在、春の物理学会にて特別講演を予定。
- 9 月 1 日より中国北京高能研リービーペー氏を 4 か月招へい予定。
- 研究会：3 月 23 日 太陽圏外圏の光学的手法による研究会

3 月 13 日 Diffuse ガンマ線と異方性の研究会

○ 外部評価を実施中。外部評価を実施中。宇宙線グループは新計画を関係大学の研究者と立案中である。

(e) 物研連物理教育小委 (村木)

○ 物研連の大学の物理教育を改善を検討する委員会では、中・高校の教育内容の浅薄化や、高校での物理選択者減少傾向、大学生の資質の変化を分析・検討している。今期物研連物理教育小委の会議を 3 月 19 日に持つことになっている。何らかの提言をだせればよいと考えている。

---

(4) 大学研究評価

大学審査機構等による大学における研究活動に関する評価が行われるが、その中で宇宙線分野は「物理学分野」ではなく「天文学分野」の枠組みの中で審査される予定。これについては関連した分野での評価が望ましいので、上記を確認した上で実行委員会としての意見を表明するかどうか検討することにした。

---

(5) 2003 年第 28 回宇宙線国際会議 (梶田)

組織委員会梶田氏より準備進展状況の説明があった。

2000 年 11 月：ＩＵＰＡＰのサポートを得た。

11 月末：学術会議に申請書提出。

2001 年 1 月：つくばホテル７００室を押さえた

2 月 22 日：学術会議ヒヤリング。

2 月 26 日：学術会議可否内定予定。

4 月：予算要求資料作成、旅行代理店決定、募金関係等具体的な作業の開始

上記学術会議ヒヤリングに関して、ホームページ上に掲載されている資料に目を通して頂き、コメントをお寄せ頂きたい。

---< 議　事　等 >---

(6) 新入会希望者

◆ 下記の希望者についての紹介があり、全員の入会を実行委員会として承認し、次回総会にて報告することにした。

○ 吉村 太彦 (宇宙線研 所長着任予定) (推薦者) 荒船次郎、戸塚洋二

(研究歴) 現在、東北大教授。1978 年、宇宙のバリオン数が大統一理論で説明できる可能性を提案し、素粒子物理学による宇宙初期研究の端緒を開いた。第 27 回仁科記念賞を受賞。また宇宙線研究所の共同利用運営委員も勤められ、平成 5 年には、宇宙線研究所の将来計画検討小委員会の委員長として、将来計画の中間答申を取り纏められた。

○ 清水 裕彦 (理研 情報基盤研究部、副主任研究員) (推薦者) 木舟 正、手嶋政廣

(研究歴) 京大理博。KEK 低温センター助手。熱外偏極中性子の原子核吸収反応における空間反転対称性の破れの測定と、時間反転対称性の破れの測定実験のための動的核偏極の研究を行った。その後、超伝導体を用いた放射線検出器の開発研究及び中性子光学素子の開発に従事している。

○ 身内 賢太朗 (東大 理学部、新 D3) (推薦者) 蓑輪 眞、坪野公夫

(研究歴) 1997 年 4 月より、ボロメータを用いた暗黒物質探索を行い、
現在、神岡地下実験室で測定を行なっている。

○ 中瀬 友和 (東海大 理学部、新 D 1) (推薦者) 西嶋恭司、谷森 達

(研究歴) 1998 年より、CANGAROO-II 7m 望遠鏡のイメージパラメータ解析。
1999 年より、CANGAROO-II 10m 望遠鏡の解析およびシュミレーションライブラリーの構築に寄与。活動銀河からの超高エネルギーガンマ線の探索をテーマに、Woomera で 1ヶ月半観測に従事し、現在、PKS2005-489 や PKS2155-304 の観測データを解析しまとめている。今年 3 月の物理学会で発表予定。

○ 櫛田 淳子 (東工大 理学部、新 D2) (推薦者) 谷森 達、窪 秀利
(研究歴) CANGAROO グループに参加、現在の 10m 望遠鏡の PMT 試験、および鏡の開発を担当、望遠鏡建設、調整にも参加し中心的に働く。修論では 7m サイズの時の性能について評価し、博士課程では、PSR1706 の解析および、CANGAROO-III の ADC を担当している。物理学会、天文学会で合計 5 回の発表を行なっている。
○ 浅原 明広 (京大 理学部、新 D 1) (推薦者) 谷森 達、窪 秀利
(研究歴) すばる望遠鏡の主焦点にチェレンコフ光カメラを設置して、カニ星雲からの 10GEV 領域ガンマ線観測計画に従事。検出器製作、すばるでの試験を中心になって行なう。2000 年より CANGAROO のオンライン改良を行っている。物理学会発表 2 回。
○ 永吉 勉 (京大 理学部、新 D 1) (推薦者) 谷森 達、窪 秀利
(研究歴) 修士課程では、微細加工技術によるワイヤレスガス検出器、Micro Strip Gas Chamber 及び Micro Pixel Detector の開発、及びこれを利用した、宇宙核ガンマ線検出用ガンマ線イメージング検出器の開発に従事。修論では、このガンマ線検出器のシュミレーションを行ない、1 度以下の角度分解能でガンマ線イメージが得られることが明らかになった。物理学会 1 回、国際学会 1 回発表。
○ 土屋 兼一 (宇宙線研 CANGAROO、新 D 1) (推薦者) 森 正樹、 榎本良治
(研究歴) CANAGAROO-III 計画において 2001 年度に建設される 2 台目の望遠鏡について、1 台目の経験に基づき、カメラの改良を行ない、光電子増倍管カメラの設計とその性能評価を行なった。2000 年春の物理学会で「チェレンコフ望遠鏡におけるキャリブレーションシステム」を発表。この春の学会で「CANGAROO-III 望遠鏡におけるカメラの開発 (I)」を発表予定。
○ 片桐 秀明 (宇宙線研 CANGAROO、新 D 1) (推薦者) 森 正樹、 榎本良治
(研究歴) CANGAROO-III 計画において 2001 年度に建設される 2 台目の望遠鏡に導入される気象、および望遠鏡の状態の監視を行う環境モニターシステムの開発、 1 台目の望遠鏡での環境モニターシステムのテストを行なっている。2000 年秋の物理学会で「CANGAROO-III モニターシステム」を発表。この春の学会で「チェレンコフ観測における雲量のモニターと宇宙線の頻度」を発表予定。
○ 鈴木 理映子 (宇宙線研 CANGAROO、新 D2) (推薦者) 森 正樹、 榎本良治
(研究歴) 修論では、CANGAROO 3.8m 望遠鏡によるγ 線バースト GRB-970402 の観測と解析結果についてまとめた。現在は CANAGAROO-II 望遠鏡で観測されたγ 線バーストの解析と、CANGAROO-III 望遠鏡の駆動システムのソフトウェア開発に携わっている。1997 年秋の学会で「γ 線バースト GRB970402 からの TeV γ 線観測」を発表。この春の学会で「CANGAROO-II 7m 望遠鏡によるγ 線バーストの観測と解析」を発表予定。

---

(7) 退会者

海老原 充 (都立大)、尾田 汎史 (神戸大)、牧野 忠男 (立教大)、中島 弘 (天文台)
各氏の退会を承認した。

---

(8) CRC 実行委員会委員の任期等について

2000 年度第 1 回 CRC 総会における議論を元に、2 年任期をたたき台として議論をし、以下の様な意見が出された。それらをふまえて新たに working group(谷森、手嶋、坂田) により、実行委員被選挙権の再検討を含めた提案を作成してもらい、それをメールにて各実行委員に伝え、次回の実行委員会にて再度議論し、決定しそれに伴う規約改正を次回 CRC 総会にはかった上で、可能ならば来年度 4 月から実施する方針を了承した。

- < 実行委員任期、被選挙権などについての討論 >
  - ○ 実行委員選挙の手間を軽減することができる。
  - ○ 他の委員会も 2 年任期のところがあり、それに連動させることもできる。
  - ○ 2 年任期にしたとき、 1 年ごとの半数改選の方が委員会での議論の継続性に利点がある。

○ 3 期継続した後は、少なくとも 1 期空けた方がよい。
○ 任期は CRC の活動方針と関係しており、1 年任期は現状に則しているのではないか。
○ 重要な答申を出す組織であることを考えると、1 年で処理できない場合もある。
○ 被選挙権については、例えば各機関の常勤の職に就き、63 才以下とする。学生、ポスドクは?
○ 規定変更になるので、現規定との関係を検討する必要がある。

- < 選挙実施に当たって >
  ○ 任期、被選挙権改正の適用を来年度 4 月からとすると、実行委員選挙時期を通常より 1 か月程度遅らせる必要がある。
  ○ 選挙人名簿の確認を 3 月に終え (事務局がメールで確認する)、4 月に入ってから選挙公示を行い (4 月初旬)、4 月末に選挙を行うのが現実的だろう。

---

(9) 第 1 回宇宙線物理学奨励賞受賞者の承認

水谷選考委員長より、5 名の応募者に関する審査過程についての報告があり、受賞者として奥村公宏 (宇宙線研 COE 研究員)、竹田成宏 (宇宙線研・学振奨励研究員) 両氏の受賞を了承した。 本来は実行委員会に対してはその報告のみでいいが、今回は第 1 回であることから、特に了承事項として扱うことにした。

◆ 続いて、来年度に向けての意見交換が行われ、以下の様な意見が出た。
○ 履歴書・論文リストを応募書類に含めた方がよい。研究歴を履歴書、もしくは推薦書 (自薦書) に記載してもいいだろう。
○ 今回の公募に用いた応募用紙には、現在の身分を明記する欄、博士論文提出先欄がないと共に、推薦理由を書く欄が小さい。
○ 小研究グループからも候補者が出せて、それぞれが正当に評価されることが原則。それに伴って、結果として広く、積極的に同賞に対して応募してもらえる様な奨励賞にすべき。
○ 選考委員会による選考結果をどの様に扱うか。選考委員会がその結果公表まで行うか、CRC 実行委員会の承認を必要とするか。

◆ 以上の意見をもとに、選考委員会による選考結果については、実行委員会委員に先だってそれを公表し、1 週間ほどの間をあけて選考委員会が CRC 会員に対して最終的に公表する。これは選考結果に対して万全を期すことを念頭にいれたものであり、特別の不都合を感じた時、実行委員はその間に意見を述べることができる様にはからったものである。次回の選考については本年 7 月の実行委員会で再度議論を行い、8 月に公募を行うことを了承した。

---

(10) CRC 名誉会員 (仮称) 制度について

◆ 意見交換を行い以下の原案を了承した。次回 CRC 総会にて検討をし、なるべく早く実施する。

(a) 名称は「ＯＢ・ＯＧ会員」とする。
(b) 65 歳以上で、それまでの CRC 会員年数が 15 年以上の会員が CRC からの退会を申し出た時、ＯＢ・ＯＧ会員への移行をお願いする。
(c) その他、(b) の項において 15 年以上の会員歴がない場合でも、実行委員会が推薦し、本人が了承した場合、ＯＢ・ＯＧ会員への移行をお願いする。
(d) 60 歳 ~ 64 歳の方について、各機関の定年年齢の推移とからんで配慮する必要がある際は (c) で対応する。
(e) 選挙権、CRC 総会における表決権はなしとする。
(f) 連絡誌などの CRC 関連情報を提供する。
(g) 会費はいただかない。
(h) ＯＢ・ＯＧ会員制度発足に伴い、通信会員制度を廃止する。

---

(11) 各大学の活性化のための今後の活動方針

◆ 前回までの宿題に対する意見交換

(a) 各大学とも大方、宇宙線スタッフは 2 名程度と少ない。各大学の研究費等でポスドクが取れる様になれば望ましい。
  ○ ポスドクは就職問題も含めて期間的に不安定である。

(b) 特定領域研究研究費の使途枠を広げる様に要求できないか。
  ○ できるかも知れないが、結果として研究費への圧迫となる可能性がある。

(c) 海外プロジェクトが多いが、よりそれがやり易い環境を作るためにはどうするか。
  ○ 個別にその要望を物件連、天文研連等に出していくべきである。実績に裏付けされた要望は力になる。

(d) 各大学でスタッフが少ない中、教育・大学運営に時間が割かれている。研究に集中できる時間が制度として保証されることが望ましい。
  ○ 結局スタッフを増やすことに結びつき、これは文部科学省の定削方針と矛盾する。

◆ その他自由討論が行われ、以下の様な意見があった。
  ○ 哲学的な問題を扱うのは現実的でない。CRC として行えることは具体的な問題についてであろう。やれるところから提案して行くべき。CRC からアッピールを出すにしても具体的な提案として出さないと意味がない。
  ○ 宇宙線の様な長期観測に対応した連続した科研費分配、もしくは特別な運営費のための予算枠の検討が必要。装置を作るための予算 (科研費) と、それに続く観測のための予算の手当が必要。

◆ 共同利用の形態について検討するべき課題として
  (a) visibility (外部に個々の大学による研究貢献がどれだけ見えるか)
  (b) 組織
  (c) 宇宙線研の研究者の意識
  (d) 各大学の持つ問題
  (e) 共同利用校費の問題

◆ < 意見交換 >

○ 各大学として、物理的に意義深い結果を出すためには一般的に高額装置が必要であり、共同利用研と共同して研究を行うことは必然であろう。

○ 共同利用の定義の問題。「 共同プロジェクト型 」なのか「 共同利用型 」なのか。「 共同プロジェクト 」として位置づけられた研究については、プロジェクト参加の各大学が果たす貢献に対する外部からの評価や visibilty は出にくいだろう。
また、一方で「 共同利用型 」の場合は、たとえばマシンタイムを各大学がもらい、各大学の主導の元で実験プラン・実験等の研究が進むので、visibilty がはっきりしている。この様な共同利用型をサポートすることも必要である。

○ プロジェクトの中では各研究者間の「 顔 」は良く見えるが、大学に戻った時、大学内の人にその人のプロジェクトの中での顔が見えにくい。それでも、この形態は大学で取る科研費の呼び水になるのではないか。

○ アメリカでは各大学に金を分配している (NFS など)。プロジェクト内での責任分担と金の配分が一致している。これはプロジェクト外から見た時、その中の大学研究者はより visible に認識されるし、日本でも独法化が行われればこの様なこともやり易くなるだろう。

○ 宇宙線研以外の宇宙線分野における重要なプロジェクトがある。科研費・大学校費でやることになるが、共同利用研が人的・資金的なサポートができないか？

○ 宇宙線研で 500 万円程度で 2 件 / 年ほどの中型研究を起こすための別枠公募をするという発想もあった。

○ ＴＡを推進するに当たり、戦術を考え、参加大学の visibilty をどう発揮させるかを開発することが、ＴＡが成功するために重要ではないか。

○ 大きなプロジェクトに経費が注がれており、他の共同利用のために経費が圧迫されてきている。文部科学省に共同利用予算の特殊性、科研費との差別化を説明し、その予算を増額してもら

う必要がある。
- ○ 例えば「共同プロジェクト」としての一部を大学に任せ (要審査)、その際は共同利用の金は宇宙線研が出すことができないか。
- ○ プロジェクト型の場合、多くの研究者連名の論文だけでなく、分担者独自の論文が書けることが望ましい。天文分野の場合はインフラとプロジェクトは切れている。
  だからプロジェクトを立てた大学はそれなりに visible である。
- ○ 共同利用型、共同プロジェクト型それぞれに個々の大学が各段階で visible になる様にしていく必要がある。
- ○ カンガルーではプロジェクト型として将来、マシンタイム分割型に持っていきたいと考えている。
- ○ 「データの共同利用型」もあるだろう。この形の中でいかに visible にするべきか。
  個別の課題に関係する著者だけで論文を書けるシステムができるか？

- ◆ 以上の議論をふまえ、加えて、更に意見を募った上、次回実行委員会にて中間報告を出すことにした。世話人：谷森、手嶋、神田、坂田、鳥居がそれに当たる。更に CRC 総会に報告し、意見を求めることにする。

---

(12) ２００１年秋の物理学会シンポ・特別講演

竹田成宏氏：宇宙線奨励賞受賞記念講演。

他に世話人 (中畑氏) に候補者の案を出してもらうと共に、実行委員会としても積極的に案を考えることとする。

---

(13) その他

宇宙線研柏キャンパス利用について要望等：

- ○ 共同宿舎部屋の設備 (コップ他) の改善。
- ○ 公衆電話の設置要望。
- ○ 建物への入退出カードの発行については各研究部の主任へ申し出ること。

==========

(資料- 1)「CRC News」メール配信 (委員会報告以外)

- ○ 公募案内；11 件
  - 10/06; 東北大理物理教官
  - 10/18; KEKCOE 研究員
  - 10/26; 宇宙線研 COE 研究員
  - 10/26; 宇宙線研研究員
  - 11/07; 宇宙線研共同利用研究
  - 11/28; KEKCOE 研究員
  - 12/15; KEKCOE 研究員
  - 12/26; KEK 教官
  - 1/15; 東邦大理物理教員
  - 11/24; Duggal Award
  - 12/08; 高エネルギー物理学奨励賞推薦及び応募
- ○ 研究会案内；17 件
  - 9/20; 宇宙線研共同利用研究発表会、
  - 9/26; Int. Workshop on Low Energy Solar Neutrinos、
  - 9/27;「ニュートリノ振動とその起源の解明」研究会

10/03;「高エネルギー宇宙の総合的理解」Int.Sympo.
10/03; 基研研究会「高エネルギー宇宙物理学の展望」
10/10; 日本 Geant4 ユーザ会ワークショップ
10/13; 宇宙ニュートリノ研究会
11/02; 宇宙線研共同利用研究発表会、
11/07; Int. Workshop on Low Energy Solar Neutrinos
& 2nd workshop on Neutrino Oscillations and Their Origin
11/16; 超高エネルギーガンマ線天体研究会
12/07; Lepton Photon Sympo.(Rome)
12/11; 宇宙線研共同利用研究発表会、
12/15; EPS-HEP2001(Budapest)
1/23; 宇宙ニュートリノ研究会
2/05; 最高エネルギー宇宙線 国際ワークショップ
2/06;「高エネルギー ハドロン相互作用」研究会
2/09; 最高エネルギー宇宙線 国際ワークショップ

○ その他のお知らせ；4 件

11/10; 物理学会合同セッション
11/10; 訃報；モスクワ大学クリスチャンセン教授ご逝去
11/15; 訃報；折戸周治教授ご逝去
1/31; 訃報；ロシアのチュダコフ博士ご逝去

◆◆◆

ＣＲＣ選挙人名簿 (2001 年 4 月 2 日現在)

(注意)

(a) 長期在外者、ＯＢ・ＯＧ会員、長期会費滞納者は、含まれていない。

(b) 東京大学宇宙線研究所に所属している方は、後述後者 (宇宙線研共同利実施専門委) に対して、選挙権・被選挙権がありませんので、ご注意下さい。

(函館北高校)　伊藤博史
(青森大学)　藤井正美
(弘前大学)　雨森道紘　市村雅一　川口節雄　倉又秀一　小西栄一　高橋信介　南條宏肇
(岩手大学)　矢作直弘
(東北大学)　石原賢治　井上邦雄　鈴木厚人
(宮城教育大学)　神田展行
(山形大学)　郡司修一　櫻井敬久
(福島大学)　石田喜雄
(新潟大学)　檀上篤徳
(茨城県立医療大学) 村石 浩
(茨城大学)　柳田昭平　吉田龍生
(高エネルギー加速器研究機構) 石田 卓　内山 隆　大林由尚　大山雄一　小川雄二郎　上窪田紀彦
河辺征次　佐藤伸明　鈴木敏一　高野元信　中村健蔵　山田作衛
(宇宙開発事業団)　槙野文命　松岡 勝
(産業技術総合研究所) 寺田聡一
(獨協医科大学)　大森理恵　野上謙一
(宇都宮大学)　太田 周　小澤俊介　佐藤禎宏　堀田直己
(足利工業大学)　勝部修一　新居誠彦
(群馬工業高専)　柳田友士
(ぐんま天文台)　奥田治之
(芝浦工業大学)　笠原克昌
(放射線医学総合研究所)　内堀幸夫　北村 尚　小井辰巳
(埼玉県立大学)　柴村英道
(埼玉大学)　綾部俊二　井上直也　宇津木敏人　有働慈治　中村市郎　水谷興平
(理化学研究所)　榊直人 清水裕彦　高橋一僖
(日本大学)　小倉紘一　加藤正人　境 孝祐　成田信男
(東邦大学)　渋谷 寛
(東京情報大学)　三浦靖子　渡辺 正
(東京理科大学)　鈴木英之
(早稲田大学)　菊池 順　道家忠義　長谷部信行　林 孝義　岬 暁夫
(東京工業大学)　石野宏和　荻尾彰一　垣本史雄　櫛田淳子　櫻澤幸司　原 敏　守谷昌代
(日本エヌ・ユー・エス)　鈴木政時
(立教大学)　関口宏之　田村直美　柳町朋樹　吉森正人
(青山学院大学)　小林 正　柴田 徹　晴山 慎　横井 敬
(明星大学)　佐久山博史　鈴木 昇
(創価大学)　青木 宏
(玉川大学)　永田勝明
(昭和薬科大学)　松林哲夫
(工学院大学)　加藤 潔
(仁科記念財団)　鎌田甲一
(東京大学)　新谷昌人　川崎雅裕　河邊径太　小林紘一　佐藤勝彦　杉之原立史　坪野公夫
寺沢敏夫　身内賢太朗　三尾典克　蓑輪 眞　森脇成典

(東京大学宇宙線研究所) 石塚正基　伊津耕平　伊藤好孝　榎本良治　大内達美　大沢昭則
大西宗博　大橋正健　岡田 淳　奥村公宏　梶田隆章　片桐秀明　金行健治
亀田 純　河内明子　黒田和明　小汐由介　櫻井信之　佐々木真人　佐藤修一
塩沢真人　塩見昌司　鈴木洋一郎　鈴木理映子　竹内康雄　竹田成宏　土屋兼一
土屋晴文　手嶋政廣　戸塚洋二　中畑雅行　西川大輔　林田直明　福来正孝
福島正己　福田善之　本田守広　間瀬圭一　眞子直弘　三浦 真　三代木伸二
森 正樹　森山茂栄　山田秀衛　山本常夏　横山千秋　吉田 滋　吉村太彦
(大学評価・学位授与機構) 荒船次郎
(国立天文台) 川村静児　高橋竜太郎　辰巳大輔　藤本眞克　水本好彦
(総務省通信総合研究所) 篠野雅彦
(電気通信大学) 植田憲一
(上智大学) 伊藤直紀
(国立情報学研究所) 上岡英史　西澤正己
(都立航空工業高専) 齋藤敏治
(東京水産大学) 大橋英雄
((株) クボタ) 原田宏一
(宇宙科学研究所) 長瀬文昭　藤原 顕　山上隆正
(神奈川大学) 佐々木孝雄　白井達也　平良俊雄　立山暢人　田村忠久　鳥居祥二　日比野欣也
吉田健二
(横浜国立大学) 片寄祐作　柴田槇雄
(海洋科学技術センター) 中本正一郎
(東海大学) 中瀬友和　西嶋恭司
(神奈川県立衛生短期大学) 古森良志子
(湘南工科大学) 杉本久彦　平良邦夫
(日立製作所) 佐藤寿樹
(山梨大学) 川隅典雄　津島逸郎　橋本勝巳　本田 建
(山梨学院大学) 内藤統也　原 忠生　三井清美
(松商学園短期大学) 鈴木尚通
(信州大学) 木舟 正　宗像一起　安江新一
(福井大学) 宮島光弘
(福井工業大学) 覚道雄次郎　小早川恵三　柴田進吉　永野元彦
(名古屋大学) 池内 了　歳籐利行　さこ隆志　佐藤修二　中村光廣　丹羽公雄　藤井善次郎
星野 香　増田公明　松原 豊　宮西基明　村井忠之　村木 綏　山下広順
湯田利典
(核融合科学研究所) 川村孝弋
(愛知淑徳大学) 安野志津子
(愛知県立明和高校) 今井和貴
(名古屋女子大学) 小島浩司　藤本和彦
(愛知教育大学) 牛田憲行
(中部大学) 柴田祥一　龍岡亮二　宗像義教
(岐阜大学) 田阪茂樹
(朝日大学) 森下伊三男
(西山短期大学) 五十嵐眞之
(京都薬科大学) 小池千代技
((株) ビューテック) 由良 剛
(京都大学) 浅原明広　窪 秀利　谷森 達　舞原俊憲　永吉 勉
(同志社大学) 醍醐元正
(近畿大学) 河島信樹　小西健陽　川本 勝　玉田雅宣　千川道幸　辻 勝文　林 浩一
御法川幸雄

(大阪市立大学) 川上三郎　田中秀樹　高橋 保　寺本吉輝　中川道夫　野中敏幸　林 嘉夫
吉越貴紀
(大阪市立桜宮高校) 佐々木隆
(大阪府立大学) 小川英夫
(大阪府教育センター) 岡部久高
(奈良産業大学) 政池 明
(神戸大学) 戎 健男　野崎光昭　向井 正
(神戸女子短期大学) 浅木森和夫　水島賢太郎
(神戸常盤女子高校) 中西祥彦
(甲南大学) 梶野文義　川田和正　坂田通徳　佐藤文隆　林 清一　山本嘉昭
((株) 神菱システム) 嶋 正仁
(高輝度光科学研究センター放射光研究所) 川島祥孝
(兵庫県立姫路別所高校) 林 敏一
(岡山大学) 和田倶典
(岡山理科大学) 伊代野淳　蜷川清隆
(岡山商科大学) 中塚隆郎
(広島大学) 宮村 修
(広島国際大学) 富永孝宏
(作陽短期大学) 井原 零
(愛媛大学) 花山洋一　吉井 尚
(高知大学) 大盛信晴　佐々木宏　中村亨普　普喜満生
(宮崎大学) 高岸邦夫
(鹿児島大学) 木下紀正
(無所属) 会津英子　伊藤謙哉　伊藤信夫　今枝国之助　太田正臣　岡野眞治　荻田直史
大橋陽三　金子達之助　神谷美子　北村 崇　北村正亟　久下 章　楠瀬昌彦
小森博夫　近藤一郎　崎村雅彦　鈴木栄輝　高橋八郎　棚橋五郎　千葉敏躬
豊田好男　中本 淳　長島一男　丹生 潔　西村 純　平島 洋　町田 勝
三宅三郎　村上一昭　村山 喬　森　覚　渡辺博之

C R C 選 挙 公 示

平成 13 年 3 月 27 日の実行委員会の決定に基づき、CRC 選挙を下記の要領で行ないます。

(1) 2001 年度 CRC 実行委員会 委員長 及び委員の選挙 ーーー> (委員長 1 名、委員 6 名を連記)

(2) 東京大学宇宙線研究所共同利用研究実施専門委員会委員 (宇宙線分野の所外委員) 推薦候補者の選挙 ーーー> (6 名を連記)

(概　説)

(a) 本選挙の 投票〆切日は 平成 **13** 年 **4** 月 **27** 日 **(金)** とします。
(当日消印有効)

(b) この連絡誌の最後のページにある選挙用紙で「郵送投票」するか、または **4** 月 **16** 日 頃に選挙事務室から送られる電子メール選挙用紙で「電子メール投票」をして下さい。
郵送投票と電子メール投票とを二重に投票した方は、郵送投票を優先させます。

(c) この連絡誌に掲載されている「**CRC** 選挙人名簿」を参考にして選出して下さい。

(d) 実行委員会からの呼びかけ。
(1) 適正な年齢構成を実現させるために、「若い人」を選んで頂けることを期待します。
(2) 自ら立てた計画の遂行に責任の持てる年齢の方が望ましい。
(3) 選挙を盛んにするために、会員間で推薦をすることも歓迎する。(これの詳細は E-mail で)

---

(1) 2001 年度 CRC 実行委員会 委員長 及び 委員の選挙

投票方法；委員長 **1** 名、及び 委員 **6** 名 を投票用紙に連記する (合計 7 名以下の記名も有効)。

規定； (a) 当選者数は、得票数の順に委員長 1 名、委員 12 名 とする。
(b) 実行委員長及び実行委員の任期は 1 年とする。
(c) 実行委員長は、同一人が 3 年連続してなる事はできない。
(d) 実行委員は、前年度委員が 6 名を越えない (新委員長は除く)。
(e) 同一機関から選ばれる実行委員の数は 2 名以内とする。
(f) 委員長に投票されて落選した方の委員長得票数は、委員得票数に加算される。
(g) 同票の場合は本人に連絡の上、くじ引きとする。

(2) 東京大学宇宙線研究所 共同利用研究実施専門委員会委員 (宇宙線分野の所外委員) 推薦候補者の選挙

投票方法 ； **6** 名 を投票用紙に連記する (6 名以下の記名も有効)。
(注意)； CRC 選挙人名簿の中の 宇宙線研究所所属の **CRC** 会員は、この選挙 (所外委員推薦候補者の選挙) に対して選挙権および被選挙権はありません ので ご注意下さい。

参考：１．所外委員は、同一機関からの選出を 2 名以内とする。
２．専門委員の任期は 2 年とする。
３．被推薦委員候補者は、得票順位により 12 名とする。尚、12 番目の得票が同票の場合は、本人に連絡のうえ、くじ引きにより決定する。12 名の中から分野を考慮して 8 名が委員に委嘱される。

尚、CRC ホームページ　http://www.icrr.u-tokyo.ac.jp/CRC/　に、
「宇宙線研究所共同利用研究実施専門委員会内規」がありますので、参考にして下さい。

2001 年度 C R C 選 挙 用 紙

(投票方法)
(1) 以下の「(a) と (b) の投票用紙」を、『投票用紙 封筒』に入れて封をして下さい。
(2) 以下の「(c) の受取票」と「投票用紙 封筒」を、『返信用封筒』に入れて下さい。

－ － － － － － － － － －切 り 取 り 線－ － － － － － － － － －

(a) 2001 年度 CRC 実行委員会 委員長および委員 投票用紙

	氏　　名
委 員 長	
委　　員	
委　　員	
委　　員	
委　　員	
委　　員	
委　　員	

空白欄があっても有効です。　　これを、『投票用紙 封筒』に入れて下さい。

－ － － － － － － － － －切 り 取 り 線－ － － － － － － － － －

(b) 東京大学宇宙線研究所 共同利用研究実施専門委員会 所外委員 推薦候補者 投票用紙

(注意)； CRC 選挙人名簿の中の 宇宙線研究所所属の CRC 会員は、この選挙 (所外委員推薦候補者の選挙) に対して選挙権および被選挙権はありません ので ご注意下さい。

	氏　　名
委員推薦候補者	
委員推薦候補者	
委員推薦候補者	
委員推薦候補者	
委員推薦候補者	
委員推薦候補者	

空白欄があっても有効です。　　これを、『投票用紙 封筒』に入れて下さい。

－ － － － － － － － － －切 り 取 り 線－ － － － － － － － － －

(c) 2001 年度 CRC 選挙 投票用紙 受取票

投票者氏名；＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

これに、貴方のお名前を記入して、「投票用紙封筒」と共に『返信用封筒』に入れて下さい。

発　行　：　宇　宙　線　研　究　者　会　議
〒 277-8582　千葉県柏市柏の葉 5-1-5
東京大学宇宙線研究所 CRC 事務局 宇宙線研支部　林田 直明
Tel. 0471-36-5117,　Fax. 0471-36-3131
E-mail : crcjimu@icrr.u-tokyo.ac.jp
責任者 : CRC 実行委員長　甲南大学理学部　坂田 通徳